

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671600260
法人名	社会福祉法人 睦会
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム
訪問調査日	平成 19 年 7 月 3 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	671600260		
法人名	社会福祉法人 睦会		
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム		
所在地 (電話番号)	山形県天童市大字道満176-1 (電 話) 023-658-8707		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年7月3日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	15.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独		新築／改築
建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	ほぼえみ24,900円さくら39,000円		その他の経費(月額)	18,000 円 他
敷 金	有(円)		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	150 円 日／2回
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋野病院 柴崎歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲をさくらんぼ果樹園地帯に囲まれた木造平屋建ての落ち着いたホームは、系列法人の施設が隣接し、また医療機関にも近いため、利用者の生活支援に関する日々の相談や心身の状態変化があった際の協力と連携体制が整っています。また、温泉を利用したお風呂にいつでも入れること、嚥下がスムーズにできるように食事30分前には口腔体操や発声運動を行うことなど、個性的できめ細やかなケアが提供されています。法人内外研修への職員の参加を積極的に進め、特に新人職員は年2回以上、キャリア職員は年3回計画しており、人材育成の面に特に熱心に取り組んできているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ホーム周辺に施設が複数あるため、ホームの場所が来訪者に、よりわかりやすくなる工夫を期待した点については、見取り図や看板表示などの検討はされたものの、「家庭的な」という面から設置等は不用であると判断した。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。また、前回外部評価の改善課題についても、全職員及び運営推進会議や理事会への報告、話し合いを行い、改善課題に取り組んでいる部分がみられる。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市職員、老人クラブ会長、児童民生委員、ゲートボール会長、家族代表2名をメンバーとした運営推進会議を3ヶ月に1回開催し、ホームの生活や月間、年間行事、外部評価の結果などを説明し、理解を得た上で意見交換を行い、風邪の流行期に加湿器の利用や7月予定の避難訓練時にメンバーから参加を得るなどの意見を活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時や各種行事への参加時、また、意見箱で意見や苦情を出してもらえよう働きかけている。開設当初は職員の対応や家族への連絡方法などについて苦情はあったが、ここ2～3年はなく、あった場合には迅速に対応策を話し合い、運営に反映させる体制を整えている。
	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の文化祭、盆踊り、駅伝大会、つつじ公園に出かけ、また、お話し、掃除、婦人会などのボランティアを受け入れたりしながら、地域の方々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの運営方針に地域密着型サービスとしての理念がまだ盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとしての特徴を事業所独自の理念の中にも盛り込み、ホームの特徴をより伝えられる配慮が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員間で理念を共有する取り組みとして、事務室内への掲示、月1回開催される全体会での確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の文化祭、盆踊り、駅伝大会、つつじ公園に出かけ、また、お話し、掃除、婦人会などのボランティアを受け入れたりしながら、地域の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。また、前回外部評価の改善課題についても、全職員及び運営推進会議や理事会への報告、話し合いを行い、改善課題に取り組んでいる部分がみられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、老人クラブ会長、児童民生委員、ゲートボール会長、家族代表2名をメンバーとした運営推進会議を3ヶ月に1回開催し、ホームの生活や月間、年間行事、外部評価の結果などを説明し、理解を得た上で意見交換を行い、風邪の流行期に加湿器の利用や7月予定の避難訓練時にメンバーから参加を得るなどの意見を活かしている。		

山形県 ラ・フォーレ天童グループホーム

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新時や市社会福祉協議会主催の介護保険担当者会議開催時に連絡、連携を行い、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納、職員の異動については、家族の面会時や月1回定期的にホーム便りを添えた個々に合わせた手紙の交付、年3回の家族交流会の開催、電話連絡にて報告している。また、会議台帳は家族面会時の月末に回覧し、承諾印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や各種行事への参加時、また、意見箱で意見や苦情を出してもらえよう働きかけている。開設当初は職員の対応や家族への連絡方法などについて苦情はあったが、ここ2～3年はなく、あった場合には迅速に対応策を話し合い、運営に反映させる体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限とし、利用者へのダメージを防ぐため、異動前日に伝えるようにしたり、職員と利用者との相性にも配慮し、対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、法人内外の研修をすべての職員が最低年1回受けており、新人は年2回以上、キャリア職員は年3回受講している。また、研修内容を月1回の全体会で報告、回覧し、全職員に周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内事業者で構成された協議会に加入し、同業者との交流会や交換実習を通して、ネットワークづくりや他の事業者の良いところを取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、利用者と共に生活していく中で、人生の先輩として、雑巾縫い、梅干しや笹巻き作り、農作業などを教えてもらい、共に支え合いながら良好な関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、食事づくりや趣味を楽しんだり、3～4人でカラオケに行ったり、利用者全員で花咲かフェアや花火大会に行ったりしている。出かけることが難しい場合は、日々の行動や表情から利用者の思いや意向の把握に努め、可能な範囲で実行できるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から希望や意見を聞き、3ヶ月ごとの検討会において職員全員で話し合い、介護計画を作成している。また、ユニットごとの申し送りノートを活用し、意見やアイデアを出し合い、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行うとともに、利用者の状態変化や新たな課題が生じた時には、その都度、本人・家族・職員間で話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者の入居の際に、本人及び家族からサービス利 用前のかかりつけ医と協力医療機関の希望を聞いて、 適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ 医の場合は職員の同行により受診し、協力医療機関の 場合は月1回往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期に向けた対応指針を定め、職員全員 で共有しており、家族との話し合い、かかりつけ医など との連携を図っている。また、系列法人の訪問看護ス テーションの看護師が講師になって学習会も行ってい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	職員同士が互いに声がけしながら意識を高め合い、利 用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声がけ をして居室誘導を行うなど配慮がなされている。また、 記録等の記載、保管については十分注意し、取り扱っ ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが希望やペースに合わせて過ごすこ とができ、掃除や散歩の場面での必要な支援が行われ ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、料理の匂いや食事準備の音を介した話題作り、利用者一人ひとりの力に合わせた下準備、盛り付け、皿洗い、食器拭きを共に行い、食事と同じテーブルで楽しみながら食べている。また、日曜日の昼食は、利用者の希望を聞き、好みの献立で食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉風呂であり、本人の希望によりいつでも入浴することができ、毎日入浴する方もいる。また、入浴時間は午後8時頃まで入浴できるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を活かした洗たくたみや食事準備、プランター作り、ゴミ出しなどの役割が自然にできている。天気の良い日には、外食や散歩、足湯、若松観音などへドライブし、雨の日にはテレビ、歌、室内ボーリングなどの楽しみ事を利用者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、買い物や散歩、外食、足湯、ゴミ出しなど、日常的に外出を支援している。また、散歩に出かける時は、一人の利用者に一人の職員が付き添って出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は日中鍵をかけず、出入りの際はチャイムが鳴るよう工夫されている。また、縁側から外に出てしまう方へも意識的な確認が行われており、利用者が外に出て行ってしまった場合は、近所の人や周辺施設の職員から連絡してもらうようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回の頻度で毎回内容を変えながら、火事や地震、夜間を想定した避難訓練を周辺施設の協力を得て実施しており、7月には運営推進会議のメンバーの参加も予定している。また、災害に備えた備品の準備に心がけている。		

山形県 ラ・フォーレ天童グループホーム

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の栄養士が作成したメニューを提供し、利用者一人ひとりの食事、水分摂取量を毎日確認し、バランスよく取れるよう支援をしている。また、夏には水の入った500ccのペットボトルを利用者ごとに冷蔵庫に用意し、十分な水分補給ができるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、畳の居間、テーブルやイスなどの調度品、季節の花や季節に合った貼り絵、七夕飾りなど、生活感と季節感を感じる工夫がなされている。また、天窓からの光にすだれを利用し、やわらかい光が入ってくるよう工夫するとともに、テレビの音量にも気を配り、居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していたベッド・イス・鏡台・テレビ、また、位牌・家族の写真・手作り小物を持ち込み、利用者本人が居心地よく過ごせる居室となっている。		